

刊行にあたって

土木学会は大正3（1914）年11月に日本工学会から分離独立したが、本年をもって創立80周年を迎えるに至った。日本工学会に属していた時期を加えると115年もの長い歴史をもつことになる。そもそも明治時代の土木工学者は、明治12（1879）年に創設された日本工学会において、土木こそ工学の中核であるとの自負の念に燃えて、工学会は、すなわち土木学会であるとの信念のもとに学会活動を行い、大きく貢献してきた。しかし、工業および工学の発展に従い、その専門分化の趨勢が著しくなり、明治18（1885）年以降、鉱業、建築、電気、造船、機械、工業化学の各専門分野が次々と各学会を創設し、相次いで日本工学会から分離独立していった。

こうした情勢のなかでも、当時の土木工学者は、あえて日本工学会を離れることなく、工学全般の向上のために努力してきたが、時代の動きに対応するため、ようやく大正3年に至って、土木学会の創設に踏み切ったのである。土木工学はまさに人間の生活と生産のための工学であり、極端な専門分化を避け、一切の技術を統括すべきものであるという、先輩諸賢の信念によるものであった。専門分化の激しい今日であっても、総合化を追求してきた先輩諸賢の言動には、なお傾聴すべきものがあると思う。

土木学会略史は、創立20周年、25周年、40周年、50周年、60周年、70周年と過去6回にわたって編集されてきた。『土木学会の80年』は学会創立80周年記念出版として前記の70周年略史に続くものとして計画された初めての通史である。今回の編集にあたっては、従来と異なり、編集委員会を組織して、実行にあたった。

内容に関しては、その量が膨大となる実態を考慮し、頁数をできるだけ抑えるため、基本的には70年略史の成果を利用することにして資料の表化を行い、主たる資料にその後の10年のデータを加えたものとし、最近10年間の学会活動の内容を中心に取りまとめた。今回の編集に際して重点的に盛り込んだ特徴を挙げると、高橋裕顧問に総論を執筆していただいたこと、内容に関してはできるだけ原典に遡って調べ、従来不明のままに残されていた課題を明らかにしようとする努力したことである。例えば、戦前存在した外地の支部および満洲土木学会の実態を明らかにするとともに、新たに「コラム」や「土木学会と私」の欄を設けて、本文の内容に盛り込みにくい話題を取り上げた。こういった成果は、委員の方々やヒアリングにご協力下さった先輩各位のお陰によるところ大であるが、特に調査執筆に鋭意専念された岡本義喬委員の熱意と努力に負うところが大きい。

この『土木学会の80年』が土木学会の足跡を明らかにする一方、これからの学会活動の発展に役立つことを念願する次第である。

1994年11月

土木学会80年史編集委員会

委員長 新谷 洋二

土木学会 80 年史編集委員会構成

(1991.12~1994.12)

顧問	高橋 裕				
委員長	新谷洋二				
委員	伊東 孝	石塚 健	大熊 孝	岡本義喬	川越達雄
	菊岡俱也	越沢 明	島崎武雄		
事務局	五老海正和	藤井肇男			